

第1学年 生活科学習指導案

1 単元名 「きせつと なかよし あき」 (全16時間 本時 8 時間目)

2 単元目標

秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見つけ、それらで遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化、自然のおもしろさや不思議さ、野原や公園のきまりを守ることなどに気付き、季節の遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ・・・「感じる心、素直に表現する自分」

- ・人の言動に何かを感じる姿
- ・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈聴く・話すについての指導〉

「聴く」については、きき方名人「あ：相手を見る い：いい姿勢で う：うなずきながら え：えがおで お：終わりまで」を子どもたちに伝え、4月当初から意識させてきた。話している相手の方を見ながら聴こうとしている児童が増えてきた。さらに、うなずきながらなど、反応を示しながら聴くことがだいぶできるようになってきた。しかし、終わりまでしっかり聴き、相手の発言の意味を捉えているか、という点では、まだ指導が必要と感じている。

「話す」については、日直や係活動など定期的に人前で話す場を設けている。朝の会や帰りの会の司会など、何を伝えるかが決まっている場合には、どの児童も話すことができる。しかし、授業中の話し合いになると「みんなに向けて話す」というよりも「先生に向けて話す」という児童も多くいる。そのため、教師の立ち位置を変えたり、「この質問は、誰に聞きたいのかな？」など声をかけたりして相手を意識させながら話すように指導しているところである。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

ノートに自分の意見を書かせ、教師がそれを見取り、その考えに自信を持たせてから話し合いの場を設けるなど、工夫を重ねてきた。国語の「やくそく」の学習では、初発の感想から学習課題を作り、話し合うという経験をした。自分の意見が友達と似ているのか、違うのかを分類する経験を重ねているところである。「似ている。」と挙手をし、発言してみると、全く新しい意見だったり、「違います。」と言って聴いてみると、同じ意見だったりとまだまだ比べて聴くという活動は、難しい子もいるが、発言を聴いている子が「あ、これは〇〇ちゃんと一緒だね。」「〇〇ってどういうこと？」などのつぶやきが聞こえてくるようになってきた。後期からお互いの顔が見やすいように、座席をコの字型にしてきた。道徳の「どうして、きまりがあるのだろう」の学習の際には、活発な意見交換が行われた。「どうして、〇〇なのだろう。」と問われると、多くの子が「自分は〇〇だからだと思う。」と答えられた。道徳のような答えがない学習の面白さに気付き、話し合いを楽しんでいる子もいる。その一方で、他の子

に話し合いを任せてしまって、考えることをやめてしまった子や話し合いの内容が理解できずにいる子もいる。どの子にも考える機会を与えたいので、話し合いを一度止めて、内容の確認をしたり、何を聞かれているのかを確認したりして授業を行っている。

また、国語の学習を中心にノート作りにも取り組んでいる。ひらがな、カタカナの学習も終え、多くの子がノートに自分の考えを書くことができてきている。しかし、自分の考えを文章に書くということが難しい児童もいるので、他の意見から自分の考えに似ているものを選んで書き写すように指導を重ねているところである。

4 単元と指導

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領第1学年及び2学年「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」（5）季節の変化と生活 （6）自然や物を使った遊び に関わることを目標としている。

秋は、木の実や落ち葉など、児童にとって魅力的な自然物が多く見られる。春や夏に季節を感じる活動をした経験を踏まえて、豊かな秋の自然を存分に体感させたい。自然の中で五感を使って全身的な活動をすることで、言葉や動作で表現することや、自然物を使って遊ぶことの楽しさに気付くことができるようになる。

さらに、自分の活動を発展させながら他の児童などとの交流を設定することによって、相手に合わせて適切に関わり、自分自身の言葉やふるまいを見つめ直して活動する実践的な力も身に付けることのできる単元である。

〈指導について〉

夏は、暑すぎて屋外での活動が制限されてしまうことも多かった。そのため、夏からの変化を体感している子が多い。年間を通して、土塁と城址公園へ足を運び季節を感じられるように活動を取り入れている。春は、花がたくさん咲いていること、夏は、セミの鳴き声がたくさん聞こえることなど子どもたちは、季節の特徴をしっかりと捉えている。秋には、銀杏の匂いがすることやどんぐりが落ちていたことなども気付いていた。学校の周りには、整備されていてなかなか自然と触れ合う機会が少ない子たちが多い。そのような環境のなかでも、虫取りが上手な子や虫を育てている子、虫や草花の知識が豊富な子もいる。話を聞く中で、多くの子どもが自然や生き物に興味があることがわかった。

まず、拾った松ぼっくりやどんぐりを使って、どんな活動をしたいかを話し合う。話し合いを通して、秋の実を使って何かを作りたいという子どもたちの願いが出てくるであろう。作れるものを調べたり、実際に必要なものを揃えたりという活動が考えられる。クラスの実態として、一人では活動が難しい子もいるので、実際にみんなで作りやすいおもちゃを一つ決め、制作に取り組む。

本時で児童が解決したい学習問題は、「**もっとけん玉をレベルアップさせるには、どうしたらいいのかな。**」である。みんながばらばらの考えを持ち、作業をするであろう。そこで、話し合いの土台として、お互いのけん玉で遊ぶ活動を設定する。互いのおもちゃの良いところ、工夫しているところなどを見つけていく。その良い点を自分のおもちゃに取り入れようと努力し活動する姿がみられるであろう。

自分の考えを発表したり、友だちの考えを聴いたりしながら伝え合う姿をひびき合いの姿とし、ブロックテーマである「自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿」を目指していきたい。

5 単元構想

1年 生活科 「きせつと なかよし あき」(全16時間)

単元目標

秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見ることができる。それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができる。

○事前の学習 きせつと なかよし (はる・なつ)・・・校庭や土塁を散策したり、城址公園に行って季節を観察したりした。

あきをみつけに いきたいな！①

- ・せみのぬけがらを見つけたよ！・でも、せみの鳴き声は聞こえないね。
- ・どんぐりを見つけたよ！・みみずを見つけたよ！・風が冷たいね。
- ・銀杏が臭い！ いっぱい落ちてるよ。・たまねぎみみずを見つけたよ。

夏から秋へ自然の様子の変化に気付いている。【知識・技能】

もしかして・・・球根かも？
見てみたい！植えてみたい！！

城址公園にも行ってみたいな！②③

- ・広いから たくさん見つけられそう。・桜やつつじは、咲いてないね。
- ・ハスの花も咲いてない。・針みたいな葉っぱ？もあったよ。
- ・松葉を並べたら、おもしろい形ができたよ。
- ・まつぼっくりがあったよ！・きれいな色の落ち葉も見つけたよ！
- ・松ぼっくりでクリスマスツリーが作れるよ。
- ・他にも何が作れるのかな。

花を咲かせたいね。水やりはするのかな？
4月にチューリップが咲いてたよ。

秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。【主体的に取り組む態度】

どんなものが作れるのか調べたい！④

- ・図書室に行ってみよう。・教科書にも載ってるよ。
- ・保育園のときに、遊んだよ。・6年生にも聞いてみたいな。
- ・家の人にインターネットを使って調べてもらおう。

秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びができるのかを考えながら、遊びを試している。【思考・判断・表現】

何を 作るのか 話し合おう ⑤

- ・どんぐりごまを作りたい。・マラカスとかの楽器も楽しそうだね。・トトロもかわいいよ。
- ・けん玉もいいね。・ネックレスもかわいいね。・おみくじも楽しそう。・作ったもので、遊んでみたい。
- ・たくさん作りたい。・めいろもいいね。

ワークシートを使用し、作りたいおもちゃに必要な道具を考えさせるようにする。

けん玉を作って あそんでみたいな。⑥⑦

- ・何が必要かな。・けん玉にもいろいろな形があるね。・うまく作れなかった・・・どうしよう。
- ・友達の作った けん玉でも遊んでみたいな。・〇〇ちゃんのけん玉、おもしろい！・まつぼっくりか、どんぐりでも作れるね！
- ・〇〇ちゃんのけん玉、むずかしいな。・自分のけん玉をもっと パワーアップさせたいな。

もっと けん玉をパワーアップさせるには どうしたらいいかな ⑧(本時)

- ・ひもの長さを短くしてみよう。・長いほうが難しくなるよ。
- ・時間を決めて、何回できたか競争したら楽しそうだね。
- ・得点を決めたら、どうかな？

お互いに作ったもので充分に遊べる時間を取る。

みんなで楽しく遊ぶために遊びの工夫を伝え合い、遊びをよりよくしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

教室の中に「材料コーナー」を設け、児童が試して遊び、自由に改良できるようにする。

みんなに あそんでもらいたいな。⑨

- ・お店みたいにしたら、楽しいね。
- ・誰を招待しようかな。

招待したい人に応じた伝え方があることに気付いている。【知識・技能】

おみせの じゅんぴを しよう⑩⑪

- ・ゲームするなら、ルールも大事だね。
- ・途中で壊れちゃうかもしれないよ・・・

安全に活動できているか、危険なことはないか見守る。

おみせを ひらこう！⑫

- ・ルールの説明や自分ががんばったことを詳しく説明しよう。
- ・呼び込みをがんばろう。

招待した人を楽しんでもらえるように関わったり、楽しんでもらえる方法をかんがえたりしている。【思考・判断・表現】

たのしかったね あき ⑬

- ・秋は、たくさん遊びができたね。
- ・冬は、どんな遊びができるかな？楽しみなね。

「きせつとなかよし ふゆ」に続く

どんぐりごま	めいろ	ネックレス	くじびき	がつき
・穴をあけるのがむずかしそう	・段ボールが必要だね。	・たくさんつくってプレゼントしたいな。	・どんぐりや松葉も使えるね。	・マラカスを作りたいな。

6 本時について

本時目標 自分の考えを発表したり、友達の考えを聴いたりしながら自分のおもちゃを改良する。

学習活動	○主な支援・留意点 ◆評価【観点】
「もっとけん玉をレベルアップさせるには、どうしたらいいのかな。」 < ひものながさ > ・みじかくする ・ながくする < かたち > ・いれるところをふやした ・ふかさのあさいれもの < ひものしゅるい > ・けいと ・りぼん ・クリップ < いれくちのサイズ > ・大きくする ・小さくする	○学習問題を確認する。 ○どうしてもっと自分のけん玉が楽しくなるか、話し合う。 ・ワークシートを活用して、自分の考えを可視化しておき、発言しやすくする。 ・話し合いがみんなで行えるように、意図的指名も取り入れていく。 教師の出どころ・・・焦点化のポイント ・わけも言わせ、話し合いを深める。 ・子どもからでてきた考えを分類しながら板書する。(ひもの長さ、ひもの種類、形、など) ・1つの意見に似ているものから発表させる。 ○自分を取り入れてみたい工夫を取り入れ、改良する。 ◆みんなで楽しく遊ぶために工夫を伝え合い、自分のけん玉をよりよくしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

7 実践を終えて

<単元について>

本単元の導入では、「はる」「なつ」と同様に、土塁の様子や城址公園の様子を見に行く活動を取り入れた。同じ場所の様子を観察することで、より季節の違いを感じ取ることができたように思う。さらに、秋は、他の季節にはない自然物を手に入れやすい季節でもあることに子どもたちは気付くことができた。雨に濡れてしまった松ぼっくりや落ち葉なども、新聞紙で作った箱に大事に保管している様子を見ると、学習への意欲の高さを感じることができた。家庭にも呼びかけ、家の近くや出かけた際に、どんぐりや松ぼっくりを見かけたら、持ってきてもらうように声をかけた。場所によって、どんぐりの種類が違ったり、同じ種類だが大きさがちがったりと、個体の持つ違いを楽しんで観察する姿が見られた。

また、クラスの実態から作るおもちゃを一つに決めてから、取り組んだ。けん玉を子どもたちが選んだことで、「玉の部分」「ひもの部分」「土台の部分」を3つのパーツに分け、具体的に材料を挙げさせることで作り方、工夫の仕方、材料の準備の仕方などがわかりやすかったようである。アイディアスケッチに自分のけん玉について熱心に書き込むことができていた。

<本時における 成果と課題>

<成果>

- ・ひもの長さを示す際に「長い」「短い」という言葉の理解、個人の感覚の違いを少しでも少なくするように、具体物を示しながら授業を行った。そうすることで、より詳しく言葉の意味を理解するために、児童同士が言葉をつないで学びあう姿につながっていた。
- ・「〇〇すると難しくなる。」という考えが様々出ていて、難しくする方法がたくさんあることを理解できている子が多くいた。具体的なアイディアが多く出ていたので、すぐに活動に移すことができていた。
- ・事前にオクリンクの機能を使い、自分のけん玉の写真を記録させておいた。写真を共有しながら話し合いを行うことができたので、集中して話し合いを行うことができた。

<課題>

- ・時間配分が難しかった。話し合いが30分を超えてしまったので、1年生という発達段階を考えると一度話し合いを止め、活動の時間を取ることも必要であったかもしれない。
- ・話し合いに積極的に参加することが難しい子もいるため、全ての子が自分の考えを表現する場の設定が必要であった。

